

スウェーデン・クリスチャンスタッド市の高齢者福祉

孤立しがちな高齢者の増加で市の課題も増加

クリスチャンスタッド市は、スウェーデンの南部スコーネ地方の東部に位置し、人口8万5000人、デンマーク国王クリスチャン4世が1600年代ルネッサンス華やかな時代に造った建物が多く、街並みはとても美しい。65歳以上人口割合は21.6%と、スウェーデン全体(19.9%)と比べて高齢化が進んでいる。当市へは今回で3度目の訪問になる。

高齢者福祉ケア委員長のエミリー・ニibelグさんに、市の高齢者福祉についてうかがった。市の高齢者福祉サービスは、高齢者特別住居、在宅ケア、付き添いサービス(通院や外出)、パーソナルアシスタント(生活介護全般から社会へのコンタクトまで)、ミーティングポイント(アクティビティなどを提供する場)、在宅医療など、多種多様だ。高齢者が増加し、在宅での広範なケアサービスが要求されるなか、介護スタッフは不足状態だが、スキルアップの必要性は高まっている。孤立しがちな高齢者も増え、かかえる課題は多い。市ではとくに認知症ケアと介護予防に注力している。

認知症ケアはデータ収集で的確なケアを模索

スウェーデンでは、認知症に対する国家戦略を策定し、ガイドラインにもとづいて認知症ケアを実施している。早期発見、的確な診断と早期治療の開始を重視し、本人を中心に、各専門職によるチームワークのもと、認知症ケアが実施されている。認知症教育や専門看護師の育成、家族に対するサポート、デー

タ収集とエビデンス作成により、効果的なケアをめざしている。

認知症の高齢者の変化を観察するNP-NHスケールを使い、BPSDをチームで推測し、本人が、より心地よい生活が送れるように心がけている。さらに認知症高齢者のデータ(性別・年齢・診断・NPI点数・BPSDの症状と診断・ケア対策・服薬)を記録し、統計からの確かなケアが行えるよう模索を続けている。

ミーティングポイントで介護予防

高齢者を社会から孤立させないことが介護予防に効果があると、さまざまな取り組みが行われている。

80歳以上の高齢者宅を訪問し、市の高齢者サービスやサポート、転倒予防などの情報提供を行うほか、65歳以上の高齢者には、交流や社会参加に必要な場合にコンタクトパーソンを付けることができる。市内に17カ所のミーティングポイントを設け、意義のあるサークル活動を提供し、社会交流もサポートしている。

精神的なニーズが満たされると健康になることから、高齢者には、音楽会、絵画、ダンスパーティ、料理教室などの文化に触れる機会を多くつくっている。一流のカルチャーは高齢者といえども人間形成に欠かせないと、市のプロジェクトマネジャーで作業療法士のアン・クリスティーンさんは語る。

日本で認知症の行方不明者が年間約1万7000人を数えるという実情を話すと、信じられないといった表情で、「もし、この市で行方不明者が出たら、市は大騒ぎになるだろう」と言う。人口が日本の約10分の1で目が行き届くから、行方不明者も出ないのだろうか。はたして日本の認知症ケアは、これでよいのだろうか。



▲認知症ケアとして、なじんだ曲を演奏するプログループ(筆者撮影)



Name 田村 明 孝

たむら・あきたか

Profile タムラプランニング&オペレーティング代表。有料老人ホームなどの開設コンサルティンクのほか、全国の高齢者施設、介護保険居宅サービス、自治体の介護保険事業計画のデータベースの収集・販売などを手がける。高齢者住宅連絡協議会総監督。